

2026.8

報道関係者各位

嵯峨嵐山文華館

2027年企画展スケジュールのお知らせ

嵯峨嵐山文華館は百人一首発祥の地と伝わる嵯峨の土地で、百人一首の歴史やその魅力と、日本画の粋を伝えています。

2027年は、竹久夢二の幅広い創作活動を紐解く展覧会をはじめ、動物たちの姿をそのまま木彫で表現するはしもとみおの展覧会、近世・近代の日本画家たちによる名画を紹介する展覧会など、多彩な企画展を開催します。

2027年3月17日(水)～2027年7月11日(日)

いちからわかる竹久夢二

2027年7月17日(土)～2027年8月29日(日)

はしもとみお展 (仮)

2027年9月11日(土)～2028年1月16日(日)

オールスター名画祭

ーでっかい、ながーい！？ すっごい絵ー (仮)

※福田美術館と二館共催

2028年1月29日(土)～2028年7月2日(日)

百人一首展 (仮)

※展覧会の会期・内容は変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

2027年3月17日(水) ～ 2027年7月11日(日)

いちからわかる竹久夢二

前期：3月17日(水) ～ 5月17日(月) 後期：5月19日(水)～7月11日(日)

大正ロマンを代表する人気画家・竹久夢二（1884-1934）。

夢二の名を知らずとも、雑貨にあしらわれた椿の花や少女の図案などの「夢二デザイン」を目にしたことがある方は多いのではないのでしょうか。本展では、今なお色褪せない竹久夢二の魅力を、初めて触れる方にも分かりやすく「いちから」紐解きます。

独学で学んだ絵画にとどまらず、文芸や音楽にも才能を発揮した夢二は、現代でいう「マルチクリエイター」でした。儚げな「夢二式美人」に代表される日本画をはじめ、現在約30点しか確認されていない希少な油彩画（本展ではうち6点を公開）、楽譜のデザインや作詞、大衆を魅了した本の装幀や千代紙、当時の風俗を描いたスケッチまで、その活動は実に多岐にわたります。

さらに本展では、夢二と深い交流を結んだ長崎の実業家・永見徳太郎（1890-1950）氏へ贈られた肉筆水彩画の連作《長崎十二景》（前期）と《女十題》（後期）を、一挙公開いたします。大正時代のはなやかで幻想的な息吹とともに、時代を駆け抜けた夢二の魅惑的な世界が広がります。



1



2



3



4

1. 竹久夢二《初春》
2. 竹久夢二《長崎十二景》より 眼鏡橋
3. 竹久夢二《女十題》より 黒猫
4. 竹久夢二《西尾小唄》
（中山晋平・新民謡XIII「西尾小唄」）原画

2027年7月17日(土) ～ 2027年8月29日(日)

はしもとみお展 (仮)

はしもとみおは、三重県北部の古い倉庫にアトリエを構え、動物たちのそのままの姿形を木彫りにする、肖像彫刻家です。

各地の美術館で、木彫りの動物たちに間近で触れ合える展覧会を開催するほか、動物たちの肖像制作、フィギュアやオブジェの原型制作や動物たちのイラスト等も手がけています。彼女の作品が持つ最大の魅力は、単なる「動物の写実的な再現」に留まらない、その深い精神性にあります。

創作活動の根底には、1995年の阪神・淡路大震災での経験があります。幼少期、獣医師を志すほど動物を愛していた彼女は、震災によって多くの尊い命が失われるのを目の当たりにしました。「形ある命はいずれ失われてしまう。もう一度会って、触れるようにしたい」という思いが彼女を彫刻の道へと導きました。彼女にとって彫刻とは、「1本の木からモデルのそのこらしさを彫り出して、観てくださる方に手紙を届けるイメージ」と語られています。

はしもとみおは、いまこの世界を共に生きている動物たちを主なモデルとしています。彼女が大切にしているのは、その子が持つ「その子らしさ」です。普段通りの自然な姿をクスノキから彫り出し、一尊の彫刻として形に留めています。

本展の会場は、そんな動物たちが日常を過ごしているような、静かで温かな空間です。そこに並ぶ彫刻たちは、会いたいときにいつでも会える存在。来場者の皆さまには、ぜひ動物たちと目を合わせ、その質感を感じていただきたいと思います。

木という素材を通して現れる、動物たちのありのままの可愛らしさと力強さ。理屈ではなく、肌で感じるひとときを、ぜひお楽しみください。



《月くんにやり》2026年

2027年9月11日(土) ～ 2028年1月16日(日)

※福田美術館と二館共催

オールスター名画祭 ーでっかい、ながーい!? すっごい絵ー (仮)

前期：9月11日(土) ～ 11月8日(月) 後期：11月10日(水) ～ 2028年1月16日(日)

本展では近世・近代の日本画家たちが豊かな創造力で描き出した渾身の意欲作を、近隣にある福田美術館との共催で公開します。第2会場となる嵯峨嵐山文華館では、ローマ美術展覧会に出品された川合玉堂《長閑・驟雨・斜陽・吹雪》や約3mもの幅がある大きな掛軸など、画家たちの多彩な意欲作を展示します。

また、東京から京都までの「ながーい」道のりを表現した歌川広重《東海道五十三次》も、前後期に分けて一挙公開。様々な視点から捉えた「でっかい」「ながーい」という壮大なスケールと共に、コレクションの「すっごい」魅力を、より一層深く感じられる機会です。



1



2

1. 川合玉堂《長閑》四幅対のうち
2. 歌川広重《東海道五十三次》庄野

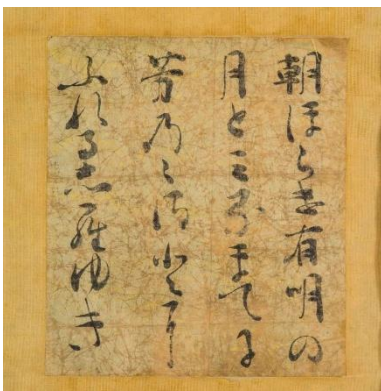
2028年1月29日(土) ～ 2028年7月2日(日)

百人一首展 (仮)

※展示替え日未定

ここ嵯峨嵐山の地で藤原定家によって編纂されたと伝わる小倉百人一首。その歌や歌人の姿は屏風や画帖、かるたなど多様なかたちに描かれ、人々を魅了し続けてきました。本展では、金銀泥で繊細な彩色を施した逸品をはじめ、趣向が凝らされた百人一首ゆかりの作品を紹介します。

併せて、『枕草子』や『伊勢物語』など、百人一首と同じように永く語り継がれる古典文学にまつわる絵画の数々を堪能できます。



1



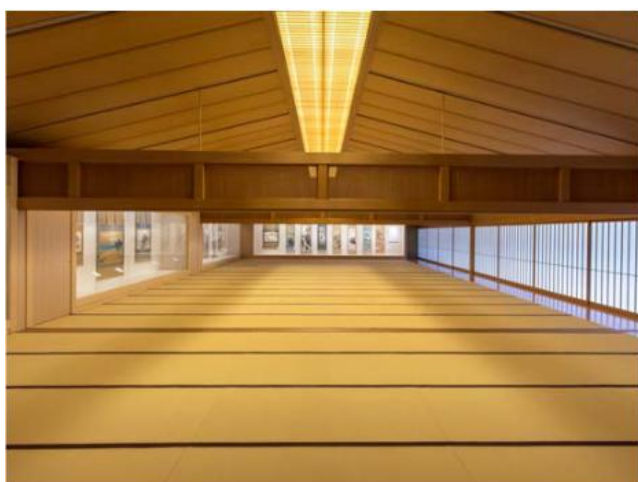
2

1. 伝 藤原定家《小倉色紙》朝ほらけ
2. 菊池契月《六歌仙図屏風》右隻

嵯峨嵐山文華館について

百人一首の歴史と日本画の粋を伝えるミュージアム

1000年以上も前から歌枕として詠まれ、愛されてきた嵯峨嵐山の風景。当館はこの地で誕生したと伝えられる百人一首の歴史やその魅力と、日本画の粋を伝えるミュージアムです。石段を上がり、冠木門をくぐって足を踏み入れると、春はしだれ桜、初夏はサツキツツジ、秋は紅葉、冬は冠雪と、四季の美しさを楽しめる石庭。百人一首ゆかりの小倉山を背にし、大堰川を借景として取り込む2階からの眺めは、まさに日本画の世界のようです。



1階の常設展示では100体の歌仙人形（フィギュア）と歌の英訳が並び、藤原定家によって百人一首が撰ばれた時から昨今人気の競技かるたに至るまでの変遷をご紹介します。また120畳の広々とした2階の畳ギャラリーでは、じっくり座って自由に鑑賞することも可能。石庭を望む明るいテラスにはカフェスペースが設けられており、景色を楽しみながらお寛ぎいただけます。



嵯峨嵐山文華館概要

■施設名称	嵯峨嵐山文華館
■開館時間	10:00～17:00（最終入館 16:30）
■休館	展示替え期間、設備点検日、年末年始
■アクセス	〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11 JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩14分 阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩13分 嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩5分
■料金	〈嵯峨嵐山文華館〉 一般・大学生：1,000円 （高校生600円 小中学生400円 障がい者・付き添い各600円） 〈福田美術館との二館共通券〉 ※展覧会により異なる 一般・大学生 ¥2,300 高校生 ¥1,300/小中学生 ¥750 障がい者と介添人1名まで 各¥1,300

プレスリリースに関するお問合せ

福田美術館広報事務局（共同ピーアール内）
担当：田中、折笠、広岡
TEL：03-6264-2045
Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp

一般の方からのお問合せ

TEL：075-882-1111（代表） Email：support@samac.jp